



水ときらめき紀の川館に 団体の来館者がありました

流水調整課

H29.06.16

紀の川大堰の水ときらめき紀の川館に、**和歌山市立安原小学校4年生**の皆さんが見学に来られ、当事務所の流水調整課3名が見学のご案内をいたしました。

まずは紀の川と紀の川大堰のことをクイズ形式で学び、問題をたくさんの皆さんが積極的に手を挙げて答えてくれました。アユの遡上の季節もほぼ終わり、少なくなっていますが、魚道観察室ではアユの群れを見ることができたり、大きなカニが水中を動いていた様子を見て、皆さんのはじけるような笑顔を見ることができました。

質問もたくさんいただき、紀の川大堰の必要性や役割についてよく理解できたと皆さんに喜んでいただけました。

団体見学概要

日時：平成29年6月15日(木)13:00～14:30

会場：水ときらめき紀の川館

参加人数：90名(生徒85名、先生5名)

団体名：和歌山市立安原小学校4年生

1. 紀の川大堰概要説明

職員がスライドを用いて紀の川や紀の川大堰の仕組み、役割などを説明しました。

集中して話を聞き、一生懸命メモをとる姿が見られました。



集中して静かに話を聞く様子



2.館内の見学

私たちは3階展望デッキに行ってみよう！



スライドで見た大堰施設を展望デッキで実際見ながら、職員の説明を聞いています。たくさんの質問が飛び出しました。

2階操作室をガラス越しに見学。ここで24時間紀の川大堰を見守っています。



1階展示室には、紀の川大堰近辺にいる昆虫たちの標本もおいています。



ベンケイガニです。魚道観察室の入口あたりでボクを見つけてね

3.館外の魚道見学



魚道を上からのぞいている様子。奥がデニバチ魚道、手前が階段式魚道です。



魚道観察室にて、自然の川の流れを食い入るように見つめている様子。

質問

Q1.「ダム」と「堰」の違いはなんですか？

A1.両方とも水をせき止めてためたり取ったりするという役割は同じなのですが、堤高(水をせき止めることができる部分)の大きさによって名前が変わります。堤高15m以上のものを「ダム」、15m未満のものを「堰」といいます。

Q2.ぼくたちは1日にどれくらい紀の川の水を使っているのですか？

A2.とってもいい質問ですね。平成25年度に調べたところ、紀の川大堰でためた水は、1日に約70万トン使われていました。これは、みんながお家で使うお水以外に、工場や農業などで使っているお水も合わせたものです。

